



3月

給食だより

2025.2.28

おひさま岡町保育園

一つ大きくなる喜びが膨らんで

今年度も早いもので残り1カ月となりました。

2月には2～5歳までの生活発表会があり、食を通した子どもたちの育ちを見て頂きました。この1年、大好きな友だちや先生、そして家族、地域など、さまざまな人とのつながりの中で心も身体も大きくなった子どもたちの姿がありました。これからも、子どもたちを真ん中にみんなであつながり合いながら、考え合ったり、成長を喜び合っていけたらと思っています。よろしく願いいたします。

3月は一つ大きくなる喜びが膨らむ月です。その気持ちが支えとなって、食の場面でも意欲的な姿が見られます。子どもたちの大きくなりたい気持ちを共に励まし支えていけたらと思っています。

また、子どもたちの様子をお伝えできたらと思います。お家での姿も教えてくださいね。



<この1年でこんなに大きくなりました>

手づかみで食べていた子どもたちが、スプーンが食べる道具とわかって、自分ですくって食べている姿がたくさん見られます。野菜の名前や色がわかったり、違いがわかることで本物の食材との出会いがさらに楽しくなっています。そして、安心できる大好きな友だちや先生の存在が、その楽しさを一層膨らませてくれます。できるようになること、わかるようになることが、1日1日増えていく成長がたくさん見られた1年でした。

幼児では、自分でできるようになったことが増え、”誰かのために”の思いがこの1年でぐんと膨らみました。料理に思いをのせ届け合う経験が、からだに心に刻まれていったことをうれしく思います。3月には、卒園するひまわりぐみが食べたい給食をリクエストできる日をつくります。給食室から、思いを込めて届けたいと思っています。



<生活発表会がんばろーランチ>

～子どもたちの意欲につながる給食を～

生活発表会の前日には、特別ランチをつくりました。すみれぐみには、てぶくろに出てくる動物たちのおにぎりを、そして幼児の子どもたちにはパンで絵本の世界を表現しました。まだ何もっていないお盆を見て“え、これ絶対『龍の子太郎』の龍ができるんじゃない？”ブロッコリーでつくるのかなあ？ほうれん草じゃない？”と、想像を膨らませている子どもたちの姿がありました。なのはなぐみの子どもたちは、山姥と小僧のパンを見て、“あれ、和尚さんいない…”と、話す姿がありました。そして、山姥の髪の毛のココアパンが大人気でみんなが食べていくと…“あー!!和尚さんおったー!”と…。髪の毛がなくなった山姥は、和尚さんに変身。子どもたちの発見にこちら思わず笑ってしまいました。あじさいぐみは、様々なパンの中から気に入りのパンを見つけ、友だちと見せ合いっこしていました。“龍のパン食べたから、明日めっちゃうねれそう！”“明日ぜったいがんばれる！”と、そんな声がたくさん聞こえてきました。子どもたちの意欲につながる給食づくりをこれからも大切にしていきたいと思いました。



食の安全について考える

無関心でいられても、無関係ではいられない

9月から日本の食料自給率、食品表示、ゲノム食品、ピーファスなど、さまざまな食の安全に関わる問題についてお伝えしてきました。食べ物は、子どもたちの身体をつくるものだからこそ、安全なものを選択しながら、健やかに育つことを願っています。今年度最後のおたよりでは、日本の食の安全性を脅かしている背景についてお伝えできればと思っています。

<なぜ、日本の食料自給率は低い？>

日本は、海外との取引を安定させるために、貿易の自由化を推進しています。貿易の自由化とは、輸入の際にかかる税金をできるだけ低くしたり、様々な規制を緩和することで輸出入が活発になるようにすることです。特にアメリカとの貿易を強化し、日本にたくさんの輸入品が入ってくるようになりました。ほしいものが安価で手に入りやすくなる一方で、国内の農家や産業が衰退している現状があります。

<食料自給率が低いとどうなるの？>

貿易の自由化によって、輸入品の安全基準(残留農薬や添加物など)の規制が緩和されたものが、国内で流通することもあります。将来的に健康被害が報告されることが大いに考えられます。また、国内や輸入先の国が地震や戦争などの不測の事態がおきた時、自国で食料の供給が十分にはできず、飢餓状態に陥ることも予測されます。日本での生産コストの問題よりも、まずは長い目で見た時に自分たちで自分たちの国を守れる国になるように私たちも考えていきたいと感じます。

日本の食問題には、さまざまな社会情勢が影響しています。これからも、子どもたちに安心安全なものが届けられるように、社会にも目を向けながら、知り得た情報を保護者の皆さんにもお伝えし、共に考えあつていけたらと思っています。